

連載

すぎなみの
街路樹

鈴懸の道 プラタナスの街路樹を歩く

プラタナス(ススカケノキ)は、リンデンバウム、マロニエ、ニレと共に、世界4大並木の二つと言われています。新宿御苑と小石川の植物園に明治時代に輸入されたものが親木となつて、日本に広がったといわれています。我が国で最も多く植えられているのは、イギリスで作られたと言われている、ススカケノキとアメリカスズカケノキの雑種のモミジバススカケノキで、樹皮が大きく剥がれ落ち、迷彩模様をしているのが特徴です。

モミジバススカケノキは、イチョウと並んで最も多く街路樹として植えられていて、杉並では、JR西荻窪駅を降りて、西荻銀座街を北へ、アーケードのなくなったあたりから、青梅街道にぶつかるまで、距離にして600メートル程の間、直径25センチ・高さ8メートル位のプラタナスの街路樹を楽しむ事ができます。

この道のプラタナス、駅から青梅街道に向かつて歩く方が美しく見えるような気がします。木の正面から見るといふことに加えて、南から当たる光が、大きな葉に透明感をもちたしているからでしょうか。また、道が緩いカーブをしているので、樹木が少しずつ重なり、ボリューム感を演出してくれている事もありません。ただ、残念なことに、青梅街道に出る少し手前の、女子大通りとの交差点から南へ数十メー

トル位の間、街路樹が切られていたり、植えたばかりの若木になったりしています。

かつてこの辺りでは、街路樹がガードレールを食ってしまった事があったといふので、ガードレール保護のため街路樹を切ってしまったのでしょうか。現在でも、関根橋近くに、プラタナスの幹がガードレールに食い込んでいるという驚くべき状況を見る事ができます。

オールド世代では『鈴懸の道』、フォークソング時代の世代にははしたのりひこの『風』を口ずさみながら歩いてみてはいかがでしょうか。



校庭の芝生

杉並区が平成13年度より進めている学校の校庭芝生化事業をご紹介します。



芝生広場は大規模公園でよく見られますが、これを良好に維持するのは大変難しいことです。それをなぜ、あえて学校で導入したかという点、地球温暖化やヒートアイランド現象などの環境問題の改善、それから、子供たちに「自然の息吹を味わう場」、「自然教育の場」を提供することが目的です。

この教育現場の新たな緑化は大都市の校庭緑化として注目され、全国に広がりつつあります。メリット、デメリットは多々ありますが、その中で教育現場では休み時間に外で遊ぶ子の増加、怪我をする子の減少、遊びの多様化、運動能力の向上などに効果があったと報告されています。

現地に行くと校庭の芝生でのびのびと裸足で駆け回ったり、寝転がったりしている子供の姿がいつでも見られます。この芝生の手入れは、多くの地域ボランティア、PTA、子供たちや学校関係者の協力で成り立っており、専門業者の指導管理のもとで進めています。

現在、和泉小グリーンプロジェクトメンバーを中心に、芝生の良さを伝える講演活動などを行い、校庭芝生緑化のネットワーク化に向けて杉並NPOの組織作りができれば、と活動しています。

区内では既に6校が芝生化されていますが、これからも多くの方々にご理解をいただき、維持管理の作業にお手を貸していただければと思っております。



和泉小学校

緑の歳時記

プラタナス(スズカケノキ)の仲間

プラタナスは属名の音読みからきています。

スズカケノキ(スズカケノキ科)

西アジア、東南ヨーロッパ原産
街路樹や公園樹として植えられ、高さ10~30mになる落葉高木です。
和名の由来は山伏が首にかけける装飾(鈴懸)によります。

幹は樹皮がうろこ状にはげ落ち、淡緑白色の斑模様になります。



葉の形は5~7裂(普通5つ)で切れ目は深く、裂片は巾が細くなります。



実は果軸に2~6個つきます。



アメリカスズカケノキ(スズカケノキ科)

北米原産、別名ボタンノキは英名のButton woodによります。
明治年間に渡米し、街路樹に植えられ、高さ30~50mになる落葉高木です。



幹は大木では縦に割れ目が入り、下の方ははげません。



葉は3~5裂(普通3裂)、切れ目が浅く大型で、巾は広く毛が多いです。

実は1個だけ垂れ下がります。



モミジバスズカケノキ(スズカケノキ科)

別名カエデバスズカケノキ
スズカケノキとアメリカスズカケノキの交配種で世界的に広く街路樹として植えられています。高さ35mにもなり、径は1mに達するものも多々あります。



幹はスズカケノキとほぼ同じですが、斑がやや細かいです。



葉は3~5裂で切れ目はややへこむ程度です。

実は枝分かかれて2~3個垂れ下がってつき、まれに4個つくこともあります。



みどり探訪

幸せな桐の木 (JR阿佐谷駅南口)

杉並のみどりとそれに関わるの方々をご紹介します。

5月の雨上がり、駅前に繁るメタセコイヤや、大きなヒマラヤ杉、中杉通りのケヤキ並木のみどりに負けずに、薄紫の花を匂わせ、「あれっ？」と人目を引くような桐の木がありました。それは、阿佐ヶ谷駅南口ロータリーを囲むビル群が途切れる南側、ふと足を止めたくくなるような木造の建物が並ぶ一角…。

ご近所の方に尋ねると、「あれはひとりでに生えてきた桐で、この家々に囲まれていつの間にかこんな大木になっていました。大きな葉っぱなので掃除はいくらか楽ですが、やはり落葉時は大変です」とのこと。花の季節には「この木は何の木ですか？」と尋ねて来る方もいるとか。

バスやタクシーが行き交う通りから、ふっとタイムトンネルに入ったような、懐かしい空気の流れる場所です。



園芸ワンポイント

指導
福本伊之助
先生

四季の草花を楽しむ

秋まき草花の中から、切り戻すことで2番花・3番花まで咲きつづけるキンポウゲ科のデルフィニウムをご紹介します。ヨーロッパ、西アジア、シベリア、北米などが原産で、約三百種類以上自生するといわれる一年草または多年草です。欧米で品種改良が進み、品種は四千種以上もあり、欧米の庭植えに欠かせないものとなっています。

●**蒔きどき**

9月中～下旬。宿根するが移植を好まず、直まきかポットまきが良い。嫌光性種子のため、まいた種にはうすく覆土する。

●**発芽温度**

18℃～20℃前後(23℃以上だと発芽が悪くなる)

●**鉢上げ**

本葉が2～3枚になったらビニールポット(9cm)、5～6枚で鉢や花壇に植える。

●**置き場所**

夏は涼しく、雨の少ない所が適する。戸外の日当たりの良い所に置き、7～8月は20～30%遮光する。

●**水やり**

土の表面が乾いたらたっぷりやる。(通年)

●**肥料**

元肥は、耕した用土に堆肥と、窒素・リン酸・カリが均等の化成肥料を施す。追肥は、2月下旬～3月初旬、4月下旬～5月初旬に緩効性化成肥料を1回ずつ施す。

種の寿命が短いので、密封容器に入れて冷蔵庫で保管します。高温多湿を嫌うため夏に枯れることが多く、栽培は簡単ではありませんが、挑戦してみたいでしょうか。



デルフィニウム

緑に関する専門相談は塚山公園みどりの相談所 ☎ 3302-9387 (毎週土・日曜日)



みどりの条例が改正されました (平成18年7月1日施行)

改正箇所はたくさんありますので、ここでは主な改正点だけをお知らせします。条例の全文など詳しいことは区のホームページをご覧ください。みどり公園課までお問い合わせください。(連絡先はこのページの一番下にあります)

主な改正点

- 題名の変更…「杉並区みどりの条例」と改めました。
- 定義の見直し…樹木、樹林など単体のものをみどりと定義していましたが、植物と、土と水などの要素が一体となって自然環境を形成している土地とし、

より多様で面的な広がりのあるものに拡大しました。

- 参画及び協働の推進…区が、区民等が行うみどりの活動の促進や区民の参画機会の確保に努めることを規定しました。
- 緑化計画書の届出…区内で行われる全ての建築行為等を届出の対象にしました。ただし、今回から対象になった200m²未満の敷地の建築行為等の届出は簡易な計画書によるものとしています。
- 区民管理協定…屋敷林等のみどりについて、公開を前提にボランティア団体等がみどりの手入れに協力するなどの協定を締結できることとしました。

前号予告した「学校緑化」は2～3面に掲載されています。

編集後記

- この季節、今年は日照不足とか。でも街を歩くと紫陽花が色鮮やかです。散策してみてください。(青)
- 今年はチャドクガが多く発生しているそうです。剪定の時には要注意ですね。(淳)
- 梅雨どきは白い花が目立ちます。クちなシ、ハンゲショウ、ドクダミなど。136号の出ることはどんな花が目立つでしょうか。皆さんも町並みをウォッチングしてみましょう。(山)
- 新しい事を書く度に、観察力とアンテナの感度が高くなって行くのを感じます。編集担当のメンバーに教えて頂く事も多く、全く謝々です。(松)
- 緑美しい駅前に夢心地で夢を語りたくなるミラクルゾーン発見。(井)

みどりの新聞 136号 平成18年7月31日発行

編集/みどりのボランティア杉並
編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp>



この印刷物は、大豆インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。